みずしる

編集・発行 国土交通省中部地方整備局

〒505-0301 岐阜県加茂郡八百津町八百津3351

TEL0574-43-2780 FAX0574-43-3921 *-ムベーシフドレス http://www.cbr.mlit.go.jp/shinmaru/ メールフドレス <u>shinmaru@cbr.mlit.go.jp</u> メールアドレス <u>shinmar</u> 平成27年9月28日発行

昭和58年9月28日に発生した悲惨な豪雨災害から32年が経過します。

今回、当時被災された方の取材を通して、この地域であった災害の記憶を風化させ ないこと、今後の災害への備えとして、地域の現状や避難の重要性を知っていただけ る機会となれば幸いとの思いより、特集号を発刊しました。

9.28

新丸山ダム工事事務所では、このような災害を繰り返さないためにも、洪水調節機能 を高める新丸山ダムの建設事業を鋭意進めています。

昭和58年9月28日の豪雨災害を忘れない(インタビュー)

当時の被害をふり返って

「当日は、経験したことのない異常な豪雨だった。」と振り返る。 「当時、多くの方が浸水被害に遭ったが、そこに避難すれば大丈 夫と信じられていた『太田小学校(避難場所)』までもが浸水し た。床上浸水により、浸水した住居の壁の隙間、家具などの家財 道具全てに泥が付着していた。特に浸水による異臭がひどく、車 などはそれが原因で廃棄せざるを得なかった。」など、当時の被 害の悲惨さやご苦労を語っていただきました。

取材を受けていただいた渡辺さんのお宅は、当時、床から 1m20cm超もの浸水被害に見舞われたそうです。



インタビューさせていただいた、 渡辺栄二さん。 昭和58年9月の災害時は、 美濃加茂市深田町在住。 平成27年3月迄、美濃加茂市立 東中学校にて校長先生として勤務。

被災からのその後

渡辺さんは、「今の子供たちは、災害等について学ぶ機会が 少なく、水に対するリスクや脅威をあまり感じていないことが 心配。機会があれば、きちんと話をすることが大切である。災 害は、思いがけないときにやって来るものだということをいつ も思っていなくてはならないのに、忘れてしまいがち。今後も 伝えていかなくてはならないと思う。」と話されました。

渡辺さんは、永年の教員としてのご経験を生かされ、現在も 当時の被害状況の語り部として、子供たちへの講話などを通じ た避難の重要性の説明や、地域の危機意識向上などに尽力され ています。



浸水被害に遭った太田第一保育園





渡辺さんのご自宅でのインタビュー



渡辺さんのお宅にて、当時の浸水位 置を確認

昭和58年9月28日の豪雨災害から32年

昭和58年9月28日の豪雨災害とは

昭和58年9月28日、台風10号による影響 で、木曽川中流では300mmを超える記録 的大雨となりました。

これに伴い、木曽川では大出水となり、 美濃加茂市、坂祝町、可児市及び八百津 町で河川が氾濫、未曾有の豪雨災害が発 生しました。

特に浸水の激しかった美濃加茂市役所 付近をはじめ、岐阜県内において、死者 4名、家屋被害4,588戸という甚大な被害 を受けました。

美濃加茂市役所 太田第一保育園 美濃太田駅 可児市 美濃加茂市

S58.9.28豪雨

岩屋ダム

木曽川大堰

牧尾ダム

丸山ダム

新丸山ダム

水害を防ぐために

被災後、美濃加茂市、坂祝町及び可児市で木曽川の堤防整備を行うとともに、加茂川の排水ポン プ増設が行われました。また、調整池の義務付けやハザードマップ等による啓発など、ソフト面の対 策も進んでいます。 位置図

新丸山ダム建設事業について

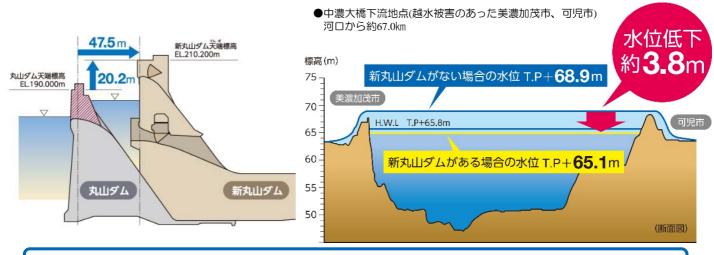
新丸山ダム工事事務所では、洪水調節機能を 強化させるため、丸山ダムの嵩上げ事業を実施 しています。

再び昭和58年9月28日の洪水と同規模の出水 があったとき、現在の堤防よりも水位が高くなり、 溢れることになりますが、 河道内の樹木伐採や 新丸山ダム建設により、河川の水位を安全な水 位まで低下させることができます。

新丸山ダム完成前後の高さの違い

新丸山ダム完成前後の水位の変化

長良川河口堰



新丸山ダムは洪水調節の他、以下の目的があります

流水の正常な機能の維持

木曽川を渇水から救い、 清らかな流れを目指します。

渇水時に河川の環境を守り、木曽川沿川の用 水の安定的な供給を図ります。

発電

地球環境に優しいクリーンな エネルギーを生み出します。

新丸山ダムによって増えた水の高低差を利用し て、発電(増電)を行います。